



東京部会(第108回)

日時:	2019年4月25日(木) 19:30-21:30
場所:	慶応義塾大学三田キャンパス研究棟 446号会議室
参加者:	[順不同・敬称略] 篠原、鍋島、埴、三枝、西崎、鈴木、岡部、中沖、藤牧、中村、加藤、新井の12名

・トランプ大統領が食べたという巨大ハンバーガーに挑戦したあと、部会を開催した。

1 鍋島史一氏(教育実践研究オフィスF代表)より「出題研究の成果を活かした授業改善へのアプローチ」の報告があった。

・これは19年「夏休み経済教室」での発表内容の概略である。
 ・発表趣旨は、問いを軸にした授業デザインづくりの提言であり、意欲的な大学の新タイプの出題例から、何を学びどんな学力を形成すべきか、出題研究で見つけた良問を教室つかってどう学ばせるか、学びの成果をどう評価するかを話す予定とのことである。

・問題例として、2019年の早稲田大学法学部の問題を事例として、そのなかの200字の論述問題、グラフの読み取り問題、選択問題を、どう学ばせるか、どう採点するか、また、どう評価するかを提起する予定である。

・また、新テストの試行問題をとりあげて、同様にこの問題をつかっての授業改善の視点を提起するとのことである。

・検討では、二酸化炭素の排出量とGDPの関係を扱ったグラフの読み取り方の問題、グラフを使って二酸化炭素を減らす便益を考えさせる問題に関して示唆が加藤先生、篠原代表から加えられた。

・相関を分析させようとする問題に関しては、グラフの軸の設定に問題があること、相関はこれだけでは何もわからないことなどが指摘された。図を使った便益問題では死荷重と消費者余剰を扱ったものであることが指摘された。

・入試問題を手がかりに、生徒の読解力、思考力、表現力を深める方策やそれらを正しく評価する授業をつくってゆくためにも、入試問題の研究(良問、悪問の指摘)がさらに求められることも示唆された。

(2) 鍋島氏より「ネットワークHP」の改善の提言があった。

・ネットワークのHPは、これまでの実践報告や活動報告を見つけ出しにくく、サイトを訪問してくれた人が、目的の情報に到達できるようにする修正が必要であることが具体的な提言も含めて、提起された。

・これをうけて優先順位が高いものから検討することになった。

(3) 鈴木深氏(東京証券取引所)から「夏休み経済教室」のプログラムに関する確認が行なわれた。

・各プログラムのタイトルを内容がわかりやすいものとする、ちらしの表示方法を修正して報告者とコメントターの関係がわかるようにすることなどの指摘がされた。

・東京高校のメインテーマは「労働問題」ではなく「労働」とすることになった。

・27日の大阪部会でさらに確認をとり、連休明けにチラシ原稿を入稿する手順で準備する予定である。



(4) 西崎弘人先生(目黒区立大鳥中学校)から「将来の政策判断を目指して」の報告があった。

- ・西崎先生の報告は、「夏休み経済教室」の東京中学での発表予定の内容である。
- ・目黒区の教員の研究会の活動のなかから生まれた授業プランで、指導要領の内容理解を踏まえ、単元全体を見据えた柔軟な構成をめざし、4観点を相互に関連させ、生徒が学ぶ過程で資質・能力を獲得してゆく授業を目指したという。
- ・取組みの具体例として、歴史学習で「ディベート」、「模擬国連総会」を行ない、成果と課題を確認し、そのうえで、公民分野で財政問題をテーマとして「政治家になったつもりで予算案を考えよう」とい政治と経済を融合するプログラム(全10時間)を作成した。
- ・10時間の内容は、1から3時間目は財政や税制に関する講義、それをうけて生徒が予算案を作る4, 5時間目の授業、6時間目にその発表・投票、7時間目が振り返りと一般化、8から10時間目で国会・内閣に関する講義と単元全体を概観するという時間という流れである。
- ・ポイントとなる予算案の設定では、議論や予算作成の方向性がばらばらにならないように、教師サイドからの条件や課題の提示をしている。また、各自の役割分担(首相役、財務相役など)をして全員が参加するようにした。さらに、自由に項目や金額を考えさせるのではなく、ある程度の制約や選択の結果の効果を提示して学びやすさに配慮したとのことである。
- ・授業の成果として、全ての国民を満足させる政策はないこと、トレードオフ、機会費用の考え方、効率と公正から予算の適正配分の考え方を理解する生徒が出ている。また、進学の際の学校選択や将来像などにプラスの影響がでていることが報告された。
- ・検討では、大阪の安野先生の実践が同じテーマを扱っているので参考にしてほしいこと、夏の教室で発表する際には、課題をどう選んで、調べさせたのか、そこから何を学んだのかがわかるようにプレゼンテーションを工夫してほしいという要望がだされた。特に、教師の誘導部分の根拠には注目がゆくので、そこに関する説明ができるようにしておいて欲しいとの要望もだされた。
- ・新テストの試行問題に、国と地方の予算を見る問題がでたように、予算の決定から政府の予算を批判的に検討させたり、地元が目黒区の予算と比較させたりするような深め方もあるのではとの指摘もされ、夏の教室に向け、これまでの実践の報告にプラスして、次回やるならこんな点を改善させたらという提案や提言までだせるように工夫してほしいということで検討を終えた。

(5) 今回の部会について

- ・夏の経済教室のプログラム、発表内容の紹介と検討で進行した。大きなイベントを一過性のものとするのではなく、部会での検討を経てブラッシュアップしながら、練り上げたものを提示するプロセスがまわりはじめていることを感じさせる今回の部会であった。

(記録と文責:新井)

次回の開催予定、2019年5月14日(火)19:00~21:00。次々回は、6月18日(火)時間は同じ。いずれも会場は慶應義塾大学三田キャンパス内会議室を予定している。